

とにし

日蓮大聖人御真筆写

発行所

日蓮正宗法華講妙縁寺支部
〒130-0001
東京都墨田区吾妻橋 2-2-10
TEL 03(3622)5086
FAX 03(3829)2766

第381号

光久御住職御書講義

浄蔵浄眼御消息(二)

然るに我等衆生は第六天の魔王の相伝の者、地獄・餓鬼・畜生等に押し籠(こ)められて氣(いき)もつかず、朝夕獄卒(ごくそつ)を付けて責むる程に、兎角(とかく)して法華経に懸かり付きぬれば、釈迦仏等の十方の仏の御子(みこ)とせさせ給へば、梵王・帝釈だにも恐れて寄り付かず、何に況んや第六天の魔王をや。魔王は前には主なりしかども、今は敬ひ畏(おそ)れて、あ(悪)しうせば法華経十方の諸仏の御見参にあ(悪)しうや入らんずらんと、恐れ畏(かしこ)みて供養をなすなり。何(いか)にしても六道の一切衆生をば、法華経へつけじとはげむなり。

(御書一四八〇、一頁)

解説

前号からの続きであります。一方で、私たちは常に第六天の魔王に紛動されて、地獄・餓鬼・畜生の三悪道の苦しみ、六道の迷いから抜け出せない状態しております。これがずっと続いているので「相伝の者」と言われております。しかし、法華経を信ずることです、「魔

王の相伝の者」では無く、「仏の御子」という命となるのです。そうしますと、楽徳長者が、昔は使用人、今は他国の閔白に仕えたように、魔王も恐れ、梵天・帝釈がその人を守るのです。これは経文に、お釈迦様の前で誓約したと説かれておりますから、仏様とのお約束通りにするわけであります。

そこで、日本国中が憎んでいる大聖人様に対し、はるばる身延山まで度々御供養を届けておられる松野殿のお姿は、「たゞごとにあらず、偏へに釈迦仏の入り替はらせ給へるか」法華経の行者を守護する為に、釈尊が松野殿の御身に入られて、日蓮を供養するのであらうと仰せであります。これは、松野殿の信心の姿、大聖人様に対する御供養の姿は、お釈迦様と同じ、即ち成仏の境界が開かれていきますよと、讃えておられるのです。

「またをくれさせ給ひける御公達」幼くして亡くなった松野殿のお子さんが、成仏をされて、今度は両親である松野殿夫妻を導こうと、御供養をさせているのでしょうかとも仰せになっております。現在の松野殿の御供養の実践によって、亡くなったお子さんの成仏は決定して疑いがないという御教示と拝します。またここで「父母」松野殿の妻も成仏へと導かれていくとの仰せは、夫である松野殿が大聖人様に対して御供養申し上げることが出来るのは、妻の献身があればこそであると、大聖人様の深いお心遣いが拝されます。



本日はここまでとさせて頂きます。仏様、御本尊様に対し奉る御供養は、真に重要な仏道修行であります。こうして当妙縁寺が立派に建立せられたのも、現在も広布の道場として歴史を刻み続けているのも、御信徒の御供養があればこそであります。御供養の功德が、皆様方の仏道成就の道となることを確信して頂きたいと思ひます。

私たちが仏道修行に励むところ、必ず魔の妨害が起りますが、この魔を恐れ、魔に紛動されては成仏は叶いません。魔に負けず、信心を貫くところにこそ、真実の成仏の道があることを忘れず、精進して参りましょう。

(文責・編集部)